

大阪大谷大学

平成三十年度 入学試験問題（一般 前期）

国 語

注意事項

- 一 問題用紙は全部で十二ページです。解答用紙は一枚です。
- 二 解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 四 問題用紙は持ち帰ってください。

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ（字数制限のある場合、すべて句読点等を字数に含む。設問の都合上、原文の一部を改変している）。

アフリカの赤道直下、ヴィルンガ火山群の山地林でマウンテンゴリラの観察を始めて間もないころのことだ。私がゴリラから数メートルの距離を置いて観察していると、近くを通りかかったシリーという若いオスのゴリラがちらっと私の方を見て近寄ってきた。これはまずいと私は思った。

それまで野生ニホンザルの調査をしてきた私は、サルに近づかれたらサルのルールに従って行動せよ、というテツソクを守ってきた。ニホンザルの社会では、相手を見つめるのは強いサルの特権である。弱いサルは強いサルに見つめられたら、決して見返してはいけない。目を合わすと挑戦したと受け取られ、強いサルから攻撃されることになるからだ。目をそらすか、歯をむき出して笑ったような表情を浮かべ、自分が逆らうつもりがないことを表明しなければならぬ。そこに相手と競合する①ような食物があればなおさらのこと、決して食物に手のばしてはいけない。だいたいサルが近づいてくるといふのは、私の周りにサルの関心を引くものがあるからだし、そのサルは自分の方が私より強いと感じているはずなので、刺激しないようにそっと目を伏せておく方がブナン^bである。

A、ゴリラのシリーが近づいてきたときも、私はシリーの方を見ないように目を伏せた。ところが、シリーは一メートル前で止まって、じっと私の顔をのぞきこんだのである。若いオスとはいえ、一〇〇キログラムを優に超える巨漢である。グローブのような手をしているし、長くて鋭い犬歯が光る。つかまれて咬^かまれてもしたら重傷を負いかねない。私は逆らうつもりがないことを示すため、さらに横を向いた。すると、シリーは私が向けた方へと顔を寄せ、さらに私の顔を正面からじっと見つめたのである。顔と顔との距離はわずか二〇センチほどしかない。私は恐怖に駆られて目を伏せてじっとしていた。意外なことに、シリーはしばらく私の顔をのぞきこむと、低い声でうなり、二、三歩遠ざかると、ぼぼこと両手で力強く胸を打っては足早に遠ざかって行ったのである。

しばし呆然^{ぼうぜん}とシリーを見送った私は、ひよっとしたらシリーの行動を私が誤解したのではないかと思った。ニホンザルと同じことだと思っていたが、ゴリラが顔をのぞきこむのは違う意味があるのかもしれない。そこで、私はゴリラ同士の行動をもっと注意深く観察してみることにした。B、これまでただ近くに寄るだけで何もしていないと思っていた行動が、実は重要な機能を果たしていることに気づい

た。ゴリラ同士が近づきあつて顔を合わす。でも、ニホンザルやチンパンジーのように体に触れることもないし、抱き合ったり、相手に馬乗りになったりすることもないので、私は何か意味のある交渉をしたとは見なしてこなかった。ところが、それは、ゴリラのあいさつ、遊びの誘い、求愛、仲直り、けんかの仲裁などに用いられていたのである。顔を合わせても、どちらかがニホンザルのような歯をむき出す笑いを浮かべることはない。どちらも無表情のまま、一分近くも至近距離でじつと顔を合わせるのだ。何ともフシギで静かな社会交渉に見えた。

そのうち、私はこれがゴリラの社会性を表す典型的な構えであることに気づいた。ニホンザルは常に自分と相手のどちらが強いかを認識し、確かめながら暮らしている。群れで仲間といっしょに移動すれば、食物や休み場所、交尾の相手をめぐって仲間と競合が生じる。それを防ぐために、あらかじめ優劣関係を作り、弱い立場のサルが自分の行動を抑制するように調節しているのだ。ところが、ゴリラはサルのような優劣関係を認識していない。ゴリラのオスはメスの二倍近い体重を持つ。子供のゴリラの一〇倍以上もある。でも、どんなに体の差があつても、小さいゴリラは劣位な態度を取らない。体の大きなゴリラが近づいてきて顔をのぞきこんでも、視線をそらすことなく、相手の顔をじつと見返す。自分が食べようとしていた食物を横取りされたら、ゴツゴツと不満の声を出す。 X

私が驚いたのは、背中の白い大きなオス同士が近づきあつてけんかが起こりそうになったとき、まだ若いシリーがするするつとオスたちの間に割り込んでけんかを止めたことだ。このときも、シリーは、二頭のオスにかわるがわる近づいてその顔をのぞきこみ、互いを遠ざけることに成功した。ニホンザルでは、決してこのような仲裁は起こりえない。体の小さなサルが大きなサル同士のけんかに介入したら、すぐさま攻撃されて仲裁どころではなくなってしまうからだ。ゴリラでそれが可能なのは、体の大きさに応じて優劣が決まっていないうことと、勝敗をつけることがトラブルの解決とされていらないからである。ぶつかりあおうとしたオスたちはどちらも負けようとは思っていない。だから実際に組み合えば、どちらもけがなしには終わらない。誰かが割って入ってくれば、けんかをせずにもメンツを失わずに引き分けることができる。そこで、自分たちより体の小さい仲裁者に従うのである。

C、群れ生活に平和と秩序をもたらすルールがニホンザルとゴリラでは違ふのだ。ニホンザルは互いに優劣を認知し、勝ち負けをすぐに決めてトラブルを防ぐ。ゴリラは勝ち負けを決めずに、第三者が仲裁に入ることによって対等性を維持する。メンツを保つためには、

仲裁者は小さい方がいい。もし大きなゴリラが仲裁に入ったら、力づくで止められたということになり、メンツが保てなくなるからだ。相手をのぞきこむ行動も、こういったゴリラの対等性を維持するために発達したに違いない。

こうしたニホンザルとゴリラの社会性を人間と比べてみると、人間はサルではなく、ゴリラに近い社会性を持っているように見える。子供のころから人間は負けず嫌いだし、トラブルを勝ち負けで解決するのではなく、第三者が仲裁して互いのメンツを保とうとする傾向が強いからだ。D、人間はゴリラほど徹底的に対等性にこだわるわけではない。相手に勝ちたい、仲間より優位に立ちたいという気持ちも持っている。ただ、そこにはシンチョウな気配りが働いている。勝つことによって、実は自分が不利な状況に置かれることが多いからである。

ニホンザルのように、勝つことは相手を屈服させ、抑制させ、押しのけることを結果する。勝者と敗者は対等ではなく、勝者が利益を独り占めにする。だから、勝つても勝者は敗者と友達にはなれない。でも、負けないでいようとすることは相手と対等な立場が目標なので、相手を屈服させたり押しのかたりすることにはならない。友達を失わないし、かえって仲良くなれるかもしれないが、常にトラブルが起る危険が生じる。そのため、間を取り持つてくれる別の仲間が必要なのである。人間はこういったことも最大限の注意を払いながら暮らしている。勝ちたいけれど友達は失いたくないから、勝利を誇らず、しきりに敗者に気配りをする。サルのように利益を独占せず、みんなに気前よく分配する。ゴリラのように、自分より弱い仲裁者であっても言うことを聞いてメンツを保つ。人間は互いに対等であることに常に気を配りながら社会を作ってきたように思える。

しかし、現代の社会はYを重視するあまり、勝敗をつけることでトラブルを解決する傾向を強めているように見える。それは、「負けまいとする態度」を「勝とうとする気持ち」に読み替えることによって加速している。サルとゴリラのように、この二つははっきり違う社会性を作り出す。それを混同して同じものと見なすことによつて、日本は競争社会を乗り切ろうとしている。

そんな事態を深刻化させる前に防ぐには、もう一度人間の社会のユライを考え直してほしい。人間はニホンザルではなく、ゴリラと共通の祖先から対等性をより重んじる社会を受け継いできた。それは、「互いに静かに向き合う交渉を持つこと」によって保たれてきた。

(山極壽一「負けない構えの美しさをゴリラから学ぶ」による)

問一 二重傍線部 a と e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄 A と D に入る最も適当な語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ(同じ選択肢は一度しか使えない)。

- ア つまり イ しかし ウ すると エ だから

問三 傍線部①「競合する」、②「劣位な態度」、③「メンツ」の本文中の意味として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

①「競合する」

- ア 比べ合う
イ 並べ合う
ウ 奪い合う
エ 重ね合う

②「劣位な態度」

- ア 他者に対してへりくだって接する態度
イ 他者に対して普通のまま接する態度
ウ 他者に対して卑屈な感情で接する態度
エ 他者に対して同情を寄せて接する態度

③「メンツ」

- ア 外見・容姿
イ 体裁・体面
ウ 我慢・虚勢
エ 人数・勢力

問四 空欄 X に入る最も適当な一文を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 勝負に執着しているのである。
- イ 決して負けていないのである。
- ウ 受け身に徹しているのである。
- エ 相手を挑発しているのである。

問五 傍線部Ⅰ「私はシリーの方を見ないように目を伏せた」とあるが、なぜ筆者はそのような対応をしたのか。その理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア シリーの個性による独自の行動原理が、充分には理解できていなかったから
- イ 一〇〇キログラムを超える巨漢であるシリーの接近に強い恐怖を感じたから
- ウ 自分の顔を見るシリーの行動をニホンザルと同様な意味で理解していたから
- エ シリーと初めて出会ったときの印象をその後の分析によって理解できたから

問六 傍線部Ⅱ「ゴリラの社会性を表す典型的な構え」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 勝敗の決着をつけることではなく、互いに向き合いコミュニケーションを保つことで対等性を維持する仕組み
- イ 勝敗の決着をより穏やかに決定し、互いに傷を負わない状態で社会の平和と秩序を維持していくための仕組み
- ウ 勝敗の決着によるのではなく、第三者の仲介を得ることによってお互いの合意点をすぐに見出すための仕組み
- エ 勝敗の決着を希求しながらも、細かな気配りと思いやりによってお互いの社会的メンツを保とうとする仕組み

問七 傍線部Ⅲ「勝っても勝者は敗者と友達にはなれない」とあるが、なぜそう言えるのか。その理由を説明している次の一文の、空欄

i

 と

ii

 に入る最も適当な語句を、本文中から抜き出して答えよ。

- 勝つことで

i

 や上下関係が発生し、

ii

 な立場とはなれないから。

問八 傍線部Ⅳ「人間は互いに対等であることに常に気を配りながら社会を作ってきた」とあるが、なぜそのような配慮をしているのか。本文中の語句を用いて四十字以内で説明せよ。

問九 空欄

Y

に入る最も適当な語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 協調性
- イ 関係性
- ウ 効率性
- エ 公平性

□ 次の文章は、『俊頼髓脳』の一節である。以下の文章を読んで、後の間に答えよ（字数制限のある場合、すべて句読点等を字数に含む。設問の都合上、原文の一部を改変している）。

春の雨をば、春さめといふ。夏の雨をば、ときの雨といふべきなり。されど、十月の雨をば、時の雨と書きて、しぐれとは申すぞかし^I。さみだれは、五月の雨と書きたれば、五月にもちゐて、四月六月にはもちゐず。六月には、ゆふだちといひて、にはかに降る雨を、夕立と書けるは、夕暮れに降るべきなめり。まことに、さぞ降るめる^{II}。秋の雨は、べちにいふ事なし。ただし、秋のしぐれに、人の申す歌、

我がやどのわさだもいまだかりあへぬにまだき降りぬるはつ時雨かな^{III}

この歌の心を思ふに、まだきといふは、なほ、Xの歌とはきこえず。時雨かなといふは、十月の空の、にはかにくもりて、ひとむらさめ降りて、程もなくはるるなり。その折のけしきにて、降りけるにや。されば、時はYなれど、空のけしきの、時雨のする折のけしきなりければ、詠めりける歌とぞおぼゆる。この歌、古今に、末かはりて入れり。いかなる事にか。

みぞれといへるは、雪まじりて降れる雨をいはば、冬もしは春のはじめなど、詠むべきにや。ひぢかさ雨といふは、にはかに降る雨をいふべきなめり。にはかに笠もとりあへぬ程にて、袖をかづくなり。されば、ひぢかさ雨といふなり。

(A) 妹がかど行き過ぎがてにひぢかさの雨も降らなむ雨隠れせむ

〔『俊頼髓脳』による〕

(注) わさだ：早稲わせを作る田。

末かはりて入れり：歌の末句の「時雨」が「みぞれ」となっている。

問一 傍線部 a 「まだき」、傍線部 b 「とりあへぬ程にて」、傍線部 c 「袖をかづく」の意味として最も適当なものを、次のア～ウの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

a まだき

ア 早くも

イ すぐに

ウ いまだ

b とりあへぬ程にて

ア 借り出せないうちに

イ 取り出せないうちに

ウ 用意できないうちに

c 袖をかづく

ア 袖を振り回す

イ 袖で頭をおおう

ウ 袖を絞る

問二 傍線部 I 「ぞかし」を説明した次の文を読んで、i～iiの間に答えよ。

「ぞかし」は、

①

の気持ちを添える。そこで、この傍線部は「

②

」と訳す。

i 空欄 ① に入る語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 願望 イ 詠嘆 ウ 疑問 エ 念押し

ii 空欄 ② に入る口語訳として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア くして欲しい イ くだなあ ウ くだろうか エ くだよ

問三 傍線部Ⅱ「さぞ降るめる」を説明した次の文章を読んで、i～ivの間に答えよ。

「さ」は本文中の「①」を指し示し、「降るめる」の「める」は「②」の意味の助動詞「めり」の「③」である。
そこで、この「降るめる」は「④」と訳す。

i 空欄 ① に入る最も適当な語句を、本文中から五字以内で抜き出して答えよ。

ii 空欄 ② に入る語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 伝聞 イ 完了 ウ 婉曲 エ 適当

iii 空欄 ③ に入る語として最も適当なものを、次のア～カの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 已然形 カ 命令形

iv 空欄 ④ に入る口語訳を答えよ。

問四 傍線部Ⅲ「はつ」を漢字一字に直せ。

問五 空欄 ・ に入る語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えよ。

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

(同じ選択肢は一度しか使えない)

問六 (A)の歌について説明した次の文章を読んで、i～vの間に答えよ。

「妹」は恋しく思う女性のことを言い、「かど」は漢字では「」と表記する。「行き過ぎがてに」については、「がて」が動詞について「くしにくい」の意味を表し、「通り過ぎにくいので」と訳す。そして、「降らなむ」については、「なむ」が で、「」と訳す。また、「雨隠れせむ」については、「雨隠れ」が「雨宿り」のことを言う。つまり、作者は、もしも雨が降ったら「雨宿り」を にして「」と思っている。

i 空欄 に入る最も適当な漢字一字を答えよ。

ii 空欄 に入る説明として最も適当なものを、次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 係助詞「なむ」 イ 終助詞「なむ」 ウ 助動詞「ぬ」+助動詞「む」

iii 空欄 に入る口語訳を答えよ。

iv 空欄 ④ に入る語句を三字以内で答えよ。

v 空欄 ⑤ に入る作者の心情を十字以内で答えよ。

問七 傍線部Ⅳ「古今」とは『古今和歌集』のことである。『古今和歌集』に関する次の文章を読んで、いゝ箇の問に答えよ。

『古今和歌集』は平安時代前期成立で、日本最初の ① 和歌集として、紀友則、② 、凡河内躬恒、壬生忠岑が撰集にあたった。また、③ は日記文学として有名な『③』の作者でもある。

i 空欄 ① に入る語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 親撰 イ 私撰 ウ 勅撰 エ 新撰

ii 空欄 ② に入る人名を漢字で答えよ。

iii 空欄 ③ に入る作品名を漢字で答えよ。